

神のみこころ

「しかし、彼を砕いて、痛めることは、【主】のみこころであった。もし彼が、自分のいのちを罪過のためにいけにえとするなら、彼は末長く、子孫を見ることができ、【主】のみこころは彼によって成し遂げられる。」(イザヤ書 53:10)

神のみこころの定義

聖書は通常神のみこころということばを三つの意味で使っている。

(1) ある文では「神のみこころ」とは「神の律法」のことである。たとえばダビデは詩篇40篇8節で、「あなたのおしえ」ということばを「あなたのみこころ」と同じように使っている。同じように使徒パウロ(新約聖書の多くの教会を開拓した指導者で新約聖書の多くの手紙を書いた人)は神の律法を知ることは神のみこころを知ることと同じと見なしている(ロマ2:17-18)。神の律法は私たちが歩むべき道を教えているので、「神のみこころ」と呼ばれて当然である。「律法」は基本的に「おしえ」を意味し、文書になった神のことば全体を指している。したがって神のみこころは私たちと全世界に対する神のご計画と目的のことである。

(2) 「神のみこころ」ということばは神の願いとして表されたものに用いられている。これは神が私たちに理想として望むこと、つまり神が最善で最高の目的とすることを指すので、神の「完全意思(完全なみこころ)」と呼ばれる。たとえばすべての人が救われること(Ⅰテモ2:4, Ⅱペテ3:9)、救いを受けた人が神との関係から離れないこと(→ヨハ6:40注)は啓示された神のみこころまたは願いである。この真理はだれもがみな救われることではなく、だれもが霊的に救われるのを神が願っておられることを意味している。実際には神が願っておられる最善のことを人間はしばしば拒むのである。

(3) 「神のみこころ」とは神が特に願ったりさせたりしてはいないけれども、起こるのを許されたことでもある。これは「神の許容意思(許されたみこころ)」と言われるものである。実際にこの世界に起きていることの多くは神の完全なみこころに反している(一致していない、反対)。たとえば神は罪、情欲、暴力、憎しみ、神への抵抗などに反対される。けれども神は悪がしばらくの間続くことを許しておられる。神は神を信じるように、または御子イエスを受入れるようにだれにも強制をされない。主イエスに自分の生活をゆだねるかどうかは自分で決めることである。私たちは神との関係を拒んで、霊的に失われて永遠のさばきを受ける状態にとどまることもできる。別の例として神は現在の世界で多くの問題や悪が起こり、私たちの人生に影響を与えるのを許しておられる(Ⅰペテ3:17, 4:19)。それは人類が神に逆らった結果続いているものである。これらのものは必ずしも神の願いや最高の目的ではない(→Ⅰヨハ5:19注, →「神の摂理」の項 p.110, 「正しい人の苦しみ」の項 p.825)。

神のみこころへの応答

神のみこころについての聖書の教えは単なる教理(教え、信条)や霊的原則ではない。神のみこころは私たちの毎日の生活に具体的にかかわるものである。

(1) 神の完全なみこころが何であるかを学ばなければならない。みことばを学んで聖書(律法を含む)に啓示されていることを知らなければならない。私たちは邪悪な時代に住んでいるので「主のみこころは何であるか」(エペ5:17)を悟らなければならない。私たちのために神が計画されたことは既にみことばに啓示されていることに矛盾しない。

(2) どのように生活することを願っておられるかを神はみことばの中に示された。それを知ったら私たちのための神のみこころと目的に従うように心と思いを定めなければならない。たとえば詩篇の記者は「あなたのみこころを行うことを教えてください」と神に求めている(詩143:10)。続いて同じ思いを別のことばで言い表して「平らな地に私を導いてくださるように」と祈っている。それは正しいことを行えるように神

